

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病虫害発生予察情報について
(予報第8号(4月))

標記について、次のとおり発表します。

なお、当室では、「病虫害発生予察情報」を農業指導者向け、別途発出する「病虫害発生・防除情報メールサービス」を農業者向けとして発信しております。病虫害発生予察情報については、当該月に発生が懸念される病虫害のうち、巡回調査等に基づき発生量の多少を予報できる病虫害について主に記載しています。

《特に注意》

- 【バラ科果樹】クビアカツヤカミキリ
- 【トマト】コナジラミ類(黄化葉巻病)
- 【たまねぎ】べと病、ネギアザミウマ(えそ条斑病)

《4月の予報概要》

A 果樹類

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
もも		せん孔細菌病			
バラ科果樹	クビアカツヤカミキリ(発生地域が拡大)				

B 野菜類

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす		すすかび病			
		灰色かび病			
		うどんこ病			
トマト	葉かび・すすかび病		アザミウマ類		
	灰色かび病				
				コナジラミ類	
たまねぎ				べと病	
		白色疫病			
				ネギアザミウマ	

《（参考）4月の気象予報》

気温	低い（20%）	平年並（30%）	高い（50%）
降水量	少ない（40%）	平年並（40%）	多い（20%）
日照時間	少ない（20%）	平年並（40%）	多い（40%）

（大阪管区气象台3月30日（木）発表）

A 果樹

1 もも

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
せん孔細菌病	やや少ない～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年7月の巡回調査において、葉での発生は「平年並」であった。 ・4月の降水量は、平年より「少ない～並」と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風当たりの強い園地では、防風ネットを設置する。 ・感染拡大を防ぐため、開花後に春型枝病斑を見つけた場合は取り除き、ほ場外に持ち出し処分する。 ・春型枝病斑の発生が多い園地では、袋かけを早めに行うと果実の感染予防に有効である。

2 バラ科果樹

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
クビアカツヤカミキリ	発生に注意	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生地域が年々拡大している。 ・幼虫は樹体内を食害し、4～10月頃にフラス（幼虫の糞・木屑・樹脂の混合物で中華麺～うどん状に固まる）を排出する。6～8月に成虫が羽化する。 ・4月の気温は平年より「高い」と予想されているため、フラスの発生が平年より早くなる可能性がある。フラスを見逃さないようにほ場をよく見回り、フラスが見られたら、千枚通しや針金等でフラスをかき出してから薬剤を注入する。 ・被害樹では、羽化して樹から脱出した成虫を閉じ込め他の樹への分散を防ぐため、また、未被害樹では成虫による産卵を阻止するため、成虫が発生する前の5月下旬までに、4mm目合いネットを2重、もしくは0.4mm目合いネットを1重に、樹体とネットに隙間をあけて巻き付ける。

B 野菜類

1 なす（施設栽培）

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
すすかび病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月の施設の巡回調査では、発生は「平年並」であった。 ・4月の降水量は、平年より「少ない～並」と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p>

		<ul style="list-style-type: none"> 被害葉は早めに取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。 高温多湿になる施設栽培で発生が多いため、過湿にならないように管理する 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特に QoI 剤、SDHI 剤は、1 作 1 回程度の使用にとどめる。
灰色かび病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 3月の施設の巡回調査では、発生は「平年並」であった。 4月の降水量は、平年より「少ない～並」と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 開花後の花弁をとり、病原菌の侵入を防ぐとともに、被害葉・被害果を早めに取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。 20℃程度の多湿な環境条件や過繁茂で発病が多くなる。 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特に QoI 剤、SDHI 剤は、1 作 1 回程度の使用にとどめる。
うどんこ病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 3月の施設の巡回調査では、発生は「平年並」であった。 4月の日照時間は、平年より「並～多い」と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 窒素過多で気温が 25～28℃、湿度が 50～80%で日照不足が続くと発生する。 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特に QoI 剤、SDHI 剤は、1 作 1 回程度の使用にとどめる。
アザミウマ類	平年並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 3月の施設の巡回調査では、発生は「やや少なかった」。 4月の気温は、平年より「高い」と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 定植時には、粒剤やかん注剤を施用する。 感受性が低下している薬剤が多く、発生が増えると防除が困難であるため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。 施設栽培では、開口部を 0.8mm 目合いの赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。 露地栽培では、天敵昆虫の温存を図るため、ソルゴー囲い込み栽培等を行う。

2 トマト（施設栽培）

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
葉かび病・すすかび病	少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 3月の施設の巡回調査では、発生は平年より「少なかった」。 4月の降水量は、平年より「少ない～並」と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 過湿条件で発生しやすい。

		<ul style="list-style-type: none"> ・すすかび病は近年増加傾向にある。葉かび病より、葉裏のかびが黒く見えるが、見分けることは困難である。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。 ・被害茎葉は早めに取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。 ・多発時には、防除が困難であるため、予防的散布が大切である。 ・薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特に QoI 剤、SDHI 剤は、1 作 1 回程度の使用にとどめる。
灰色かび病	少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月の施設の巡回調査では、発生は「少なかった」。 ・4月の降水量は、平年より「少ない～並」と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多湿条件下で発生が多くなるので施設の換気を十分行う。 ・茎葉が過繁茂にならないよう摘心・摘葉をこまめに行う。 ・開花後の花弁をとり、病原菌の侵入を防ぐとともに、被害葉や被害果を早めに取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。 ・薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特に QoI 剤、SDHI 剤は、1 作 1 回程度の使用にとどめる。
コナジラミ類 (トマト黄化葉巻病)	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月の施設の巡回調査では、発生は「平年並」であった。 ・4月の気温は、平年より「高い」と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <p>【コナジラミ類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すす病を引き起こす他、タバココナジラミはトマト黄化葉巻ウイルス(TYLCV)の媒介や吸汁による果実の着色異常等様々な被害を引き起こす。 ・施設栽培では、開口部を0.4mm目合いのネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・ほ場内及び周辺の除草を行う。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 <p>【トマト黄化葉巻病】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トマト黄化葉巻病に対する有効な薬剤は無いため、媒介昆虫であるタバココナジラミの早期発見・早期防除に努める。 ・発病株は見つけ次第抜き取り、ほ場外に持ち出し処分する。

3 たまねぎ

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
べと病	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部地域で発生が見られたという情報提供があった。 ・3月の巡回調査では、発生は「平年並」であった。 ・4月の降水量は、平年より「少ない～並」と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・べと病は好適条件(気温15℃前後で多雨)が揃うと急速にまん延する恐れがある。

		<ul style="list-style-type: none"> ・発生前に予防剤を散布する。発生を認めたら、発病株を抜き取った後、治療剤を散布する。 ・抜き取った発病株は、健全株への感染源となるため、集めてほ場外に持ち出し、処分する。
白色疫病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月の巡回調査では、発生は「平年並」であった。 ・4月の気温は平年より「高い」、降水量は平年より「少ない～並」と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生前に予防剤を散布する。発生を認めたら、発病株を抜き取った後、治療剤を散布する。 ・抜き取った発病株は、健全株への感染源となるため、集めてほ場外に持ち出し、処分する。
ネギアザミウマ (えそ条斑病)	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月の巡回調査では、発生は「平年並」であった。 ・4月の気温は平年より「高い」、降水量は平年より「少ない～並」と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <p>【ネギアザミウマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えそ条斑病の病原ウイルス（IYSV）を媒介する。たまねぎやねぎなどネギアザミウマの寄主作物を作付けしている地域では、ネギアザミウマが互いの作物間を移動することが確認されており、本虫の移動に伴ってIYSVの感染も広がる。 ・発生初期の防除に努める。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 <p>【えそ条斑病】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えそ条斑病に対する有効な薬剤は無いため、媒介昆虫であるネギアザミウマの早期発見・早期防除に努める。 ・発病株は見つけ次第抜き取り、ほ場外に持ち出し土中深く埋めるか、廃ビニールで覆って密閉する等適切に処分する。

●大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・ホームページ

(平成23年4月1日より大阪府病害虫防除所から組織名変更)

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

●病害虫発生情報メールサービス

申込先大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・メールサービス担当

TEL 072-957-0520

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/mailservice/mail servicemousikomi.html>

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

年間約15件の病害虫情報を電子メールで送付します。

●おおさかアグリメール

申込先大阪府立環境農林水産総合研究所

企画部企画グループおおさかアグリメール受付担当

TEL 072-979-7070

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/agrimail/>

最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

●Web版大阪府園芸植物病虫害図鑑

「ひと目でわかる花と野菜の病虫害」

<http://osaka-ppa.jp/zukan/index.php>

(大阪府植物防疫協会)